

提案者情報	
提案 ID	43296
単独法人の提案法人名	—
提案団体名（コンソーシアム等の名称）	関西 SDGs プラットフォーム公認 共育分科会
代表法人名	非公表
構成団体名（法人名等）	非公表

提案内容	
提案名	責任ある未来社会へ ～昆虫で持続可能な健康「食」を！～
検討テーマ【テーマ】	②環境・エネルギー
【分野】	SDGs ゴール目標：②③④⑤⑦
提案のポイント	世界的な人口増加に伴う、食料危機への対応策として、昆虫食レシピの開発・募集とその普及を目指します。昆虫は、貴重なたんぱく源として魅力的な食材であり、また、地球環境の持続可能性を担保するため、昆虫が積極的に消費される未来社会を作りたいと考えています。昆虫食を通して環境について考え、世界を変えていくため、「食」「環境」のことを自分事として考える機会を提供し、問題解決に向けて発信したいと考えています。
提案概要	<p>海洋汚染や土壌汚染等々、今日では地球環境への配慮なしに健康な「食」について語ることはできません。</p> <p>そこで、地球環境への負荷を軽減しながら、豊富なたんぱく源として摂取できる「昆虫」にスポットを当て、昆虫食レシピと持続可能な昆虫生産システムを開発し、世界中からも昆虫食レシピを募集します。昆虫食の消費行動が環境負荷軽減に繋がることを発信し、共感を募り、昆虫食を普及させていきたいです。</p> <p>昆虫の原形に強い抵抗感を持つ人が多いので、昆虫粉末を料理の中に一定量混ぜ、昆虫食の生産と消費拡大に繋げると共に、限りある「食」「環境」に対峙し、環境負荷軽減を図りたいです。</p> <p>また、品質（風味）保持を徹底する製造業者の視点ではなく、「粉末状態であればよい」を第一に、昆虫養殖について、コンポスト容器での生ごみリサイクルを利用した養殖方法（生ごみ堆肥を昆虫のエサにする）の持続可能性を探り、それを支える社会基盤の整備についても検討・提案していきます。</p> <p>以下、昆虫食の優れた機能性について、列記します。（オオニシタクヤ「動物性タンパク質源である昆虫食のエネルギー的可能性 その量産を目指すデザイン手法」（KEIO SFC JOURNAL Vol.17 No.1 2017）より引用）</p> <p>■可食部位について 牛：全体の約 40% 昆虫：平均 80% ⇒可食部位が多く、無駄が少ない</p> <p>■飼料交換率について</p>

	<p>牛：4%（1kgの収穫に25kgの飼料が必要）</p> <p>昆虫：50%（1kgの収穫に2kgの飼料が必要） ⇒飼料の無駄が少ない</p> <p>■1kgの生産に必要な水について</p> <p>牛：20,000リットル</p> <p>昆虫：8リットル ⇒水の無駄が少ない</p> <p>■動物性たんぱく質の含有量について</p> <p>牛：17%</p> <p>昆虫：80%（製粉調理後は約68%） ⇒牛よりも多い</p> <p>■単位面積あたりの生産量について</p> <p>牛：5g/sqm</p> <p>昆虫：66g/sqm ⇒生産効率がよい</p> <p>■温室効果ガスの排出量比について</p> <p>牛：昆虫=85.5：1 ⇒昆虫は環境負荷が少ない</p>
--	--

添付資料	
提案内容補足資料	43296_1_⑤に関する資料（大阪・関西万博アイデア提案）共育分科会.xlsx.pdf
その他の資料	43296_2_生ごみ堆肥の作り方（参考資料）.pdf